

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 2月20日

【評価実施概要】

事業所番号	3271800520		
法人名	有限会社 プラスロックアソシエイツ		
事業所名	グループホーム 「あさぎりの家」		
所在地	島根県邑智郡川本町1179番地2 (電話) 0855-72-3222		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟町43		
訪問調査日	平成20年2月12日	評価確定日	平成20年2月27日

【情報提供票より】(平成20年 1月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年11月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	12人	常勤	8人, 非常勤 4人, 常勤換算1.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造りコンクリート屋根3階建て 3階建ての 2F ~ 3階部分
------	---

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300円	昼食	400円
	夕食	400円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(1月28日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名	
要介護1	5	要介護2	2			
要介護3	2	要介護4	0			
要介護5	0	要支援2	0			
年齢	平均	87歳	最低	75歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	仁寿かわもと診療所 加藤病院 原田歯科医院 楨平歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

居室が2階・3階にありいろいろな制約がある中、職員数を多く配置したり、利用者の状態に応じて夜勤を複数にするなど柔軟な体制が取られている。職員は日常の言動からも利用者の得意なこと興味のあることなどをキャッチし、その人に合わせた支援をと心掛けている。利用者は食事中の会話もはすみお茶を入れあいお互いを気遣うなど和やかで穏やかな生活を送られている。新しい管理者は「自己評価」を厳しく評価し、更なる向上をめざし意欲的な姿勢でケアに臨んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 介護計画を全員で作成する、家族にたよりを発行する、玄関の日中の施錠や表示などが課題であったが、複数担当者で立てた原案を全職員で作成する、たよりを管理者の手紙とともに送付するなどそれぞれ改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者の交代により、自己評価に取り組む時間的制約があり、運営者や管理者が中心に記入したものに職員が目を通す形で作成された。項目について話し合ったり改善課題を共有するまでには至っていない。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議には利用者代表も参加され、地域への広報の発行に関する事、周辺住民への見守り依頼、防災対策に関する事など積極的に意見交換している。会議を通じ水害マニュアルを作成するなど運営にも活かされている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 管理者の手紙や「あさぎりの家」だよりなどが届けられ、様子が分かると家族から喜ばれている。意見箱を設置したり、家族の面会時は苦情や要望を聞くようにしているが意見が出ない現状である。時折、相談を受けている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入している。図書館の文化展に見学に行ったりしているが、利用者は地域の敬老会や公民館活動への参加は消極的であり、馴染みの関係作りや地域との連携はこれからの課題となっている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組 みを期 待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの抽象的な理念を見直し、地域密着型サービスの意義を職員で確認しあい、地域との交流やその人らしさなどを支援する理念に作り変えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新しく作られた理念は玄関やホールに掲示され、職員の日々のケアに役立てている。管理者は申し送りや問題があった時など理念に触れ、意識付けをしたり確認しあうようにしている。	○	変更した理念を職員で唱和し浸透する計画が立てられている。実現や継続に期待したい。規定の一部に実態にそぐわない表現があるので見直しを望む。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の会合に参加したり「あさぎりの家」だよりを回覧しているが、地域住民のホームに対する知名度は低く、支えあいや交流は十分とはいえない。看板が小さく分かりにくい。	○	地域活動への参加をはじめ、会合での活動紹介などに取り組み地域で知名度を上げて頂きたい。看板も工夫されることを望む。たよりの紙面の工夫や発行回数も検討して頂きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価項目により職員に意見を聞いたが、時間的な制約もあり管理者や運営者が記入した自己評価票を職員が目を通して作成した。	○	サービス評価の意義や目的を再度確認しあい、年間計画に基づいて改善課題に全職員で取組まれるよう期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者代表も参加され、ホームの活動や外部評価結果の報告をはじめ介護の悩みや防災対策・散歩コースや見守りなどについて協議されている。運営にも活かされ水害マニュアルが作成された。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は利用者の入居に関して担当者に相談している。かわもと”夢と元気”創造プロジェクト推進委員会に参加し意見交換している。県外の事業所見学も行い運営などに活かしている。	○	町内の事業者の交流会も計画されており、これらを機会に町との連携強化を望みたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の様子を伝える管理者の手紙と共に「あさぎりの家」だよりや介護計画書・金銭出納帳・受診状況などが報告され、家族から喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を置いたり、家族への手紙などで意見や要望をくみ上げるようにしているが、なかなか表出されない。時に意見が連絡帳に記載されることがある。	○	意見や要望・苦情を率直に言い出せるような雰囲気作りや運営に活かせるような方法等工夫して頂きたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者に複数のケア担当者を配置することで、ケアの統一と共に職員離職時のダメージ防止にもなっている。離職防止のためメンタルヘルス健診の実施や公平な勤務となるよう心掛けている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修希望者には基本的に参加の機会が与えられている。スタッフミーティングの場で介護技術も含め伝達報告され、内容の共有化に努力している。資格取得にも意欲的である。	○	研修参加の年間計画作成と共に計画されている内部学習会の実施に期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症実践者研修の実習に4人を受け入れたが、地域内での同業者間の交流や相互訪問は行っていない。	○	次年度に計画されている町内の同業者間の交流会の実現や継続に期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時マニュアルが作成されている。自宅に面接に行き利用者や家族とゆっくりと時間をかけ馴染みの関係を築き入居してもらっているが、直接ホームに入居することに抵抗がある人がまだいる。	○	馴染みの関係が少しでも前進できるよう、建物内にデイサービス設置が考えられている。地域のニーズやケアマネの要望もあり、実現に期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	寿司の味付けや習字を書いてももらったりと利用者個々の得意なことで主役になる場面をつくるよう支援したり、畑づくりや門松作りなどでは利用者から教えてもらっている。	○	料理や園芸・編み物・裁縫・生花など利用者の得意な分野を引き出すような支援に今まで以上に力を入れたいと意欲的である。職員の支援に期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者の言動から把握するよう心掛けている。	○	今以上に利用者の意向や思いを把握したり、職員間の共通認識にするために、センター方式の導入が考えられている。実現して頂きたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者に複数のケア担当者を配置し、担当者を中心に個別介護計画の原案が作られ、それらを基に職員全員で意見を出し合って作成している。計画は細かく具体的である。	○	家族参加のカンファレンスが検討されている。家族をはじめ関係者の情報や意見や要望を取り入れた、さらなる利用者本位の介護計画作成に期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態変化に応じ計画が見直されている。モニタリングは定期的いきちんに行われているが、三ヶ月となっている。	○	現状に即したり、予防的な対応が行われるためにも一ヶ月に一回の見直しを期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の受診時の同行をはじめ、24時間対応の医療連携などを行っている。家族の宿泊希望に備え家族室が用意されている。	○	申請を検討しているショートステイやデイサービスの開設を実現して頂きたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週一回の在宅療養支援診療所の訪問診療を受けたり、協力病院での検査を受けている。受診表が作られ受診後は家族に報告されている。歯科や眼科は今までのかかりつけ医を利用している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化対応・終末期ケア対応指針」が管理者によって作成されているが、夜勤体制や救急時対応などで職員は不安を持っている。	○	作成された指針の共有化や受け入れのための諸条件をクリアするために、関係者との話し合いを十分に行われるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者を尊重した言葉掛けを行っている。居室に入る時にノックしたり同意を得るなど、日々の生活の中でプライバシーに配慮した対応をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の居室には「その人の日課表」が貼られ、一日の大まかな流れが分かるようになっているが、その日の体調や気持ちを尊重した対応に配慮している。個別レクリエーションにも取り組み、歌や塗り絵・カラオケなど楽しまれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立決めや調理・味付け・下膳・食器洗いなど職員と一緒にやっている。職員は同じ食事を食べ、会話をしながら利用者を見守っている。利用者同士でおすそ分けしたりお茶を入れてあげたりと細やかな心遣いをされていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴が可能である。午後の時間帯の入浴が多く、夕食後や夜間の入浴希望者はいない。風呂嫌いな利用者には入浴剤やゆずを利用して楽しんでもらうなど工夫している。	○	夜間や夕食後の入浴希望に備えて職員体制の検討や風呂嫌いな利用者への工夫を継続して行って頂きたい。利用しやすい浴室への改善が望まれる。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑作りや習字・料理・手芸・繕い物など、利用者の好きなことや得意にしていることに力が出せるような場面作り心がけ、各自の役割を發揮してもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や天候に合わせて散歩やドライブに出かけているが、2階・3階に居室があるため戸外に出ることは消極的になりやすい。	○	職員の外出時に利用者に同乗してもらったり、時には外で弁当を食べるなどいろいろな工夫で戸外に出る機会を多くして頂きたい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中は開錠され自由に外に出れるようになっており、センサーで出入りが把握されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署と防災訓練をしたり、自治会の防災訓練にも参加している。推進会議を通じ「水害マニュアル」が作成された。備蓄品は3日分確保している。	○	自治会で自主防災組織をつくる案がありホームとして参加の意思を持っている。積極的な活動を望む。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者1人ひとりの食事摂取量などが把握され記録されている。一日2回のおやつ時間に十分に水分摂取ができるよう心掛けている。年一回程度、関連法人の管理栄養士のチェックを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下は利用者の大きなスナップ写真や塗り絵・習字・金魚鉢・花などで飾られている。ホールとキッチンがつながっており、料理の音や臭いを感じ取ることができ家庭的な空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が得意だった編み物でつくった毛糸のピエロや自分で書いた習字などが飾られている。使い慣れた家具や好きな植物も持ち込まれ、心地よく過ごせるような居室づくりとなっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。